



写真提供 (C) Kaz Photography/FC GIFU

## 「J」を駆ける。

無尽蔵のスタミナと、強靱なフィジカルを併せ持つ、将来が期待されるストライカー。幼い頃からの夢であった「Jリーガー」となった今、更にその先に目指すものとは。

まちだ  
**町田ブライトさん**  
(プロサッカー選手)



鶴ヶ島南小(鶴ヶ島サザンキッカーズ)→鶴ヶ島南中→成立学園高等学校→東京国際大学→JAPANサッカーカレッジ→FC岐阜(J3)  
No.15、FW、173cm、80kg、23歳

**FC岐阜** 岐阜市を中心に岐阜県全県をホームタウンとする日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)のクラブチーム(J3)。今年はJ2昇格を目指し、チーム一丸となって戦う。

**サッカーの虜に**  
「6歳の頃です。近所の公園で遊んでいたら、友達のお母さんに誘われて「サッカーを始めたことがきっかけでした。」  
高校ではインターハイに出場、大学では関東大学リーグ2部のチームを1部に昇格と、全日本大学サッカー選手権大会初出場に導くなど、輝かしい活躍を見せました。その後、地域リーグを経て、2020年、ついに念願のプロサッカー選手に。しかし、これまでは挫折そうにも考えました。「他の道に進むことも考えました。サッカーを忘れて、いろいろと調べてみても、サッカー以上にやりたいことが見つからず、やっぱり自分にはサッカーしか無かった」

**プロサッカー選手になって**  
生活サイクルやリズムに変化は無いとのこと。しかし、「チームメイトは皆、身体能力や技術がありまますから、本当に頭を使わなければ通用しません。いろいろと勉強できますし、自分がレベルアップしているのが楽しいです」と、レベルの高い環境で常に刺激を受け、成長を実感しています。

**子どもたちへ**  
町田選手と同じようにサッカーに夢中の子どもたちには、「プロになりたいという気持ちは大事ですが、諦めそうな時は、サッカー以外のこともやってみてください。いろいろな視点を身につけることができると思います。支えてくれる方々からの助言や意外な発見でサッカーはより面白くなるものです。これは昔の自分に聞かせたかったですね(笑)」と話してくれました。

**これから**  
今年の目標は「J2昇格に貢献!」と、言葉に力を込めました。新型コロナウイルスの影響により、中断していた公式戦を再開する予定のJリーグ。いまだ不安が残る状況の中でも、まったくブレることがない町田選手がピッチを駆け回る日は近い。

### 編集後記

「交通事故には必ず過失が存在する。それはつまり、その事故は防げたということだ」何年も前に警察の方から聞き、今も強く印象に残り続けている言葉です。事故によって悲しい思いをする人が一人でも減るようにと、活動続ける交通関係団体の皆さん。交通事故のないまちは、私たち一人ひとりがつくるものだ改めて実感しました。ご意見・ご感想は秘書広報課広報聴担当へ  
✉10200001@city.tsurugashima.lg.jp

### まちのお知らせをスマホでチェック!

市では、SNSなどでも行政情報を配信しています。ぜひ、ご利用ください。  
問合先 秘書広報課広報聴担当



Twitter  
@tsurugashima



Facebook  
まちだより



MAIL MAGAZINE



マチイロ



マイ広報紙